

学科	科目名	担当者	単位	配当年次	実務経験内容	授業概要	
全学共通	共通教育科目群	防災・安全教育	洲脇 一郎	2	3	・兵庫区役所地域福祉課長（震災時） ・神戸市教育委員会事務局総務部主幹 ・神戸市教育委員会事務局総務部教職員課長 ・神戸市教育委員会事務局参事 ・神戸市教育委員会事務局参与	阪神・淡路大震災や東日本大震災の体験・教訓を継承し、教員・保育士を目指す学生が防災教育、避難訓練、安全教育等の基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、子どもの安全を守るための行動の在り方を考える。また、授業には、教育委員会、消防署、六甲砂防事務所等の現場から現役の担当者を講師に招き、現在の防災・安全教育について講演いただいている。
		栄養学	廣田 有加里	2	1	・製菓会社（管理栄養士、調理師、第一種衛生管理者） ・福祉施設（介護支援専門員） ・クリニック（管理栄養士、健康運動指導士）	近年、私たちを取り巻く生活環境、社会環境の変化とともに食事の内容が大きく変化してきている。このような状況の中で、栄養情報が氾濫し、「何をどのように食べるか」といった健康や食生活に関する情報の取捨選択能力が求められている。心身の成長・発達が急速に進む乳幼児期の栄養状態は、その後の肥満や生活習慣病などと関連があることが報告されていることから、一人ひとりが自らの健康を守る意識と行動を抜きにしては効果的な健康づくりは望めない。自分の健康を自身で守るためのツールとして栄養の知識を習得する。
		神戸学	梶山 卓司	2	2	・神戸新聞社 社会部記者 シンガポール駐在特派員 北播総局編集主任 社会部副部長 姫路支社編集部長 東播支社長 論説委員長 常勤監査役	国際都市・神戸は古代から港とともに発展してきた。神戸の町がどのような歴史を刻み、現在の都市を築き上げたのか。千年に及ぶ歴史を振り返りながら、文化、観光、くらし、グルメ、ファッションなどを通して、近代日本をけん引した神戸の人とまちの姿を浮き彫りにし、地域としての神戸について学ぶ。
		多文化社会	宗田 勝也	2	2	・難民ナウ！代表 ・日本UNHCR-NGOs評議会会員 ・世界コミュニティラジオ放送連盟 (AMARC) 日本協議会運営委員 ・NPO法人PEACE事務局長 ・NPO法人京都コミュニティ放送理事	多文化社会とは、少数者への理解と配慮、少数文化に対する尊重がなされる社会を指す。そしてその果実が、それぞれの文化が会合することによる、より豊かな文化の創造である。この講義では、〈セクシャル・マイノリティ〉、〈難民〉などという言葉を手がかりに、文化、価値観が多様化する日本社会の新しい姿を考え、そこに暮らす多様な人たちの権利に関する理解を深めることを目的とする。
			8				

学科	科目名	担当者	単位	配当年次	実務経験内容	授業概要	
総合文化学科	専門教育科目群	マスコミ研究	梶山 卓司	2	2	・神戸新聞社 社会部記者 シンガポール駐在特派員 北播総局編集主任 社会部副部長 姫路支社編集部長 東播支社長 論説委員長 常勤監査役	マスコミ、マスメディアとは何かから始めて、私たちの元に届くニュースや情報がどのような経緯で生まれているかを学ぶ。とくに、新聞記者に焦点を当てて仕事の内容を知り、新聞ジャーナリズムのあり方を学ぶ。また、第一線で働く報道関係者をゲスト講師に迎え、記者の生の声を通してジャーナリズムへの理解を深める。
		マーケティング論	岸上 龍平	2	1	・株式会社ワールド ・財団法人神戸ファッション協会 ・株式会社セントモノ	長年の「資本主義経済」の流れに乗って右肩上がりの成長は、すでに過去のものとなった。「資本主義」の限界さえささやかれており、いくつかの問題も指摘されている。「マーケティング」は、人間中心主義と言われる「デザイン思考」の考え方を取り入れた「新たなマーケティング」を必要としている。この授業を通して「デザイン思考」のプロセスを体験しながら経済社会で求められている「新たなマーケティング」の理解を目指す。
		ブランドマネジメント論	岸上 龍平	2	2	・株式会社ワールド ・財団法人神戸ファッション協会 ・株式会社セントモノ	ブランドマネジメント論は、ブランドの基本を学びブランド構築までを経験する。ブランドとは、企業のみならず、地域や団体等も対象としている。策定するブランドアイデンティティや顧客のブランドイメージやブランドの取り巻きに関するすべてに広げて方法論を展開する。これらのすべてを可視化することで具体的な事例を扱う。本授業では、「コンテキスト・ブランディング」と「デザイン思考」の考え方を活用してこのプロセスを通してブランド構築を体験することで理解を深める。
			6				

学科	科目名	担当者	単位	配当年次	実務経験内容	授業概要	
児童教育学科	専門教育科目群	人権教育	古川 知子	2	3	・大阪府教育委員会 高校教育課指導主事 ・大阪府教育センター 教育相談室指導主事 企画室指導主事 ・大阪府教育委員会 市町村教育室児童生徒支援課主任指導主事 教育振興室高等学校課主任指導主事・首席指導主事 ・大阪府立高等学校校長 ・大阪府教育委員会 教育振興室高等学校課参事 教育振興室副理事(教職員室副理事兼務)	人権教育は、幼児児童生徒が、自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることの意義を理解し、そのことを態度や行動で体現できるようになることが目標となる。到達目標に対応した法制度や基本的な内容を理解した上で、自身の考えを適切にまとめ発表し合う。他者の考えを共有し、自身の考えをふりかえる。正解が一つでない場面で、より高い水準で考えようとする「教師力」を培う。
		教職論	小坂 明	2	1	・神戸市立小学校教諭、教頭、校長	「教職とは」について、教職の意義、教員の役割、職務内容、資質能力など、実際の教育事例に基づいて、その基礎的・基本的な理論理解する。社会の進歩や変化のスピードが速まり、学校現場の課題も多種・多様化する中、教員へ求められる課題も多い。その課題解決のため、教員の資格、研修、学校経営なども現状の様子を映像資料等も参考に活用しながら理解する。これらを理解した上で、教員を目指す自らの動機や「求められる教師像」について考え、学び、将来は「学び続ける教員」の基礎になるようディスカッションやグループ学習、プレゼン発表など多様な学習形態を組み合わせて習得する。
		体育 I	田中 聡	2	1	・神戸市立小学校教諭 ・神戸市教育委員会社会教育部スポーツ体育課学校体育係指導主事 ・神戸市教育委員会体育研究指定校研究協力員 ・文部科学省体育実技伝達講習会派遣教員	幼稚園での運動遊び・小学校体育での運動教材について、小学校体育科の体づくり運動領域と陸上運動、ゲーム・ボール運動領域を取り上げ、運動遊び支援、運動指導に必要な関わり方・指導法とその技能を身につける。
		子どもと人権	古川 知子	2	2	・大阪府教育委員会 高校教育課指導主事 ・大阪府教育センター 教育相談室指導主事 企画室指導主事 ・大阪府教育委員会 市町村教育室児童生徒支援課主任指導主事 教育振興室高等学校課主任指導主事・首席指導主事 ・大阪府立高等学校校長 ・大阪府教育委員会 教育振興室高等学校課参事 教育振興室副理事(教職員室副理事兼務)	子どもをめぐる人権課題(いじめ、不登校、小1プロブレム、性暴力、虐待など)について学ぶ。今、学校・家庭の課題は山積しており、一方で、「子どもの貧困」がクローズアップされ、マイノリティの子どもの教育保障も、一層重要性を増してきている。こうした課題をとりあげ、課題克服について考える。
			8				

学科	科目名	担当者	単位	配当年次	実務経験内容	授業概要	
心理学科	専門教育科目群	カウンセリング	古川 心	2	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都市下京子ども支援センター地域相談員</li> <li>・大阪府立三島高等学校ハートケアサポーター</li> <li>・京都市保健福祉局保育課心理職</li> <li>・滋賀県五個荘町立保健所発達相談員</li> <li>・滋賀県五個荘町立教育委員会発達相談員</li> <li>・大阪府教育委員会スクールカウンセラー</li> <li>・京都府教育庁スクールカウンセラー</li> <li>・立命館大学心理・教育相談センターカウンセラー</li> <li>・京都女子大学大学院こころの相談室・主任相談員</li> <li>・大阪府教育庁スクールカウンセラー</li> </ul>	対人援助の基礎となるカウンセリングに関する理論と実践について学び、他者の話を聴き、主体的に理解する視点と技術を身につけることを目的とする。
		心理学的支援法	古川 心	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都市下京子ども支援センター地域相談員</li> <li>・大阪府立三島高等学校ハートケアサポーター</li> <li>・京都市保健福祉局保育課心理職</li> <li>・滋賀県五個荘町立保健所発達相談員</li> <li>・滋賀県五個荘町立教育委員会発達相談員</li> <li>・大阪府教育委員会スクールカウンセラー</li> <li>・京都府教育庁スクールカウンセラー</li> <li>・立命館大学心理・教育相談センターカウンセラー</li> <li>・京都女子大学大学院こころの相談室・主任相談員</li> <li>・大阪府教育庁スクールカウンセラー</li> </ul>	心理学的支援が求められる場面は、教育・医療・福祉、あるいは司法や産業など幅広く、多様である。各分野で必要とされる知識や技法等に違いはあるものの、心の専門家としての基本的な視点が存在し、それを身につけることは重要である。本授業では、代表的な心理療法やカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を学習する。あわせて、心理学的支援法を行う上で大切となること（訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、支援を要する者の関係者への支援、心の健康教育）について学ぶことを目的とする。
		子どもと人権	古川 知子	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府教育委員会 高校教育課指導主事</li> <li>・大阪府教育センター 教育相談室指導主事</li> <li>・大阪府教育委員会 企画室指導主事</li> <li>・大阪府教育委員会 市町村教育室児童生徒支援課主任指導主事</li> <li>・教育振興室高等学校課主任指導主事・首席指導主事</li> <li>・大阪府立高等学校校長</li> <li>・大阪府教育委員会 教育振興室高等学校課参事</li> <li>・教育振興室副理事(教職員室副理事兼務)</li> </ul>	子どもをめぐる人権課題(いじめ、不登校、小1プロブレム、性暴力、虐待など)について学ぶ。今、学校・家庭の課題は山積しており、一方で、「子どもの貧困」がクローズアップされ、マイノリティの子どもたちの教育保障も、一層重要性を増してきている。こうした課題をとりあげ、課題克服について考える。
			6				

学科	科目名	担当者	単位	配当年次	実務経験内容	授業概要	
福祉臨床学科	専門教育科目群	社会保障論Ⅰ	戸田 典樹	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大津市役所 高齢福祉担当ケースワーカー</li> <li>・生活保護担当ケースワーカー・スーパーバイザー</li> <li>・母子・父子福祉担当ケースワーカー</li> <li>・保険年金課係長</li> <li>・大津市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター</li> <li>・大津市民病院医療相談室次長</li> <li>・京都府教育委員会 就学援助担当</li> <li>・認定社会福祉士スーパーバイザー</li> </ul>	本授業の目的は、第一に社会福祉制度の生成と展開、制度体系や財政、機能などについて学び、社会保障制度に対する総合的理解をすることである。そして、第二に現在の現代社会が生み出す生活困難を理解することである。
		公的扶助論	戸田 典樹	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大津市役所 高齢福祉担当ケースワーカー</li> <li>・生活保護担当ケースワーカー・スーパーバイザー</li> <li>・母子・父子福祉担当ケースワーカー</li> <li>・保険年金課係長</li> <li>・大津市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター</li> <li>・大津市民病院医療相談室次長</li> <li>・京都府教育委員会 就学援助担当</li> <li>・認定社会福祉士スーパーバイザー</li> </ul>	公的扶助は、現代社会のなかで、貧困や低所得に陥った人びとに援助を行うための制度である。このため本授業の目的は、現在の社会経済状況と貧困・低所得者の生活実態を踏まえ、公的扶助の概念、歴史、制度、課題などを理解することにある。そして、現代社会がどのようにして貧困を生み出しているかを考えることにある。
		子どもと人権	古川 知子	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府教育委員会 高校教育課指導主事</li> <li>・大阪府教育センター 教育相談室指導主事</li> <li>・大阪府教育委員会 企画室指導主事</li> <li>・大阪府教育委員会 市町村教育室児童生徒支援課主任指導主事</li> <li>・教育振興室高等学校課主任指導主事・首席指導主事</li> <li>・大阪府立高等学校校長</li> <li>・大阪府教育委員会 教育振興室高等学校課参事</li> <li>・教育振興室副理事(教職員室副理事兼務)</li> </ul>	子どもをめぐる人権課題(いじめ、不登校、小1プロブレム、性暴力、虐待など)について学ぶ。今、学校・家庭の課題は山積しており、一方で、「子どもの貧困」がクローズアップされ、マイノリティの子どもたちの教育保障も、一層重要性を増してきている。こうした課題をとりあげ、課題克服について考える。
			6				

学科	科目名	担当者	単位	配当年次	実務経験内容	授業概要	
ジュニアスポーツ教育学科	専門教育科目群	保健体育科教育法Ⅰ	齋藤 正俊	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府立高等学校教諭</li> <li>・大阪府生徒指導研究会副委員長</li> <li>・大阪教育大学附属高等学校教諭、副校長</li> </ul>	中学・高等学校保健体育科の授業を計画・実践できるようになるために、その大綱的基準である学習指導要領の目標と内容について理解を深める。と同時に、学校現場における実務の内容を踏まえ、保健体育科教員に求められる資質・役割・責務等を理解し、実践的力量的礎を形成することをめざす。
		保健体育科教育法Ⅱ	齋藤 正俊	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府立高等学校教諭</li> <li>・大阪府生徒指導研究会副委員長</li> <li>・大阪教育大学附属高等学校教諭、副校長</li> </ul>	保健体育科の授業実践における方法論上の課題を、教材づくりと模擬授業(教材の実体験)を通して実践的に学ぶ。ここでは、子どもの実態をふまえて、「なにを、どのようにして」納得してわかせるかを、具体的な教材づくりと教材による学習の実体験により理解する。同時に、保健体育科に固有の指導方法および指導技術(情報機器および教材の活用を含む)を習得する。
		子どもと人権	古川 知子	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府教育委員会 高校教育課指導主事</li> <li>・大阪府教育センター 教育相談室指導主事</li> <li>・大阪府教育委員会 企画室指導主事</li> <li>・大阪府教育委員会 市町村教育室児童生徒支援課主任指導主事</li> <li>・教育振興室高等学校課主任指導主事・首席指導主事</li> <li>・大阪府立高等学校校長</li> <li>・大阪府教育委員会 教育振興室高等学校課参事</li> <li>・教育振興室副理事(教職員室副理事兼務)</li> </ul>	子どもをめぐる人権課題(いじめ、不登校、小1プロブレム、性暴力、虐待など)について学ぶ。今、学校・家庭の課題は山積しており、一方で、「子どもの貧困」がクローズアップされ、マイノリティの子どもたちの教育保障も、一層重要性を増してきている。こうした課題をとりあげ、課題克服について考える。
			6				